

◆カリキュラム・ポリシー 《教育課程編成・実施の方針》◆

【大学】

学位授与方針として掲げた 5 つの能力を修得するために、本学の「カリキュラム編成の企保となる主要概念」に基づいて、人間はその人らしく生きること、楽しみ喜び幸せ、癒しを求めて生きる存在であることの理解と、人間性を高め、科学的な思考を修得することで看護のジェネラリストとしての統合力を持つ人を育成する方針のもと、基礎分野の一般教養科目、専門基礎分野の医学系科目、保護・福祉系科目、専門分野の専門科目、実習科目発展科目を配置し、カリキュラムを編成する。

1. 看護専門職者として求められる基本的な資源・能力として、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、深い愛と癒しの対人関係力を修得する。
2. 看護専門職者として求められる基本的な資質・能力として、生命の尊厳に基づくいのちを慈しむ心を持ち、思考力と行動力を修得する。
3. 看護の対象を理解する基本的知識と看護実践の基本となる専門基礎知識として、科学的な根拠に基づく臨床判断力を持ち、看護過程を展開する力を修得する。
4. 多様な場における看護実践に必要な基本的知識として、看護の課題に複眼的視座を持ち、専門的かつ創造的な看護実践力を修得する。
5. 社会と看護学並びに臨地実習と看護学研究からの学びを統合して、看護学の発展のために自己研鑽を継続し、新たな看護の創出を目指す研究力を修得する。

【大学院】

[高度実践看護職養成コース(助産師国家資格取得コース除く)、教育者・研究者養成コース]

本課程の教育理念に則って、ディプロマ・ポリシーを達成するために、豊かな人間性と高い倫理観、高度な看護実践力、看護実践を支える科学的・哲学的基盤に基づいた教育力、研究力と組織における改善・改革、社会のニーズや健康に関する課題への対応力を修得する科目を配置する。

修士課程では、専門能力を養うために教育理念に基づき高度実践看護職養成コース、教育者・研究者養成コースを設け、「慢性看護学分野」「地域看護学分野」「母性看護学・助産学分野」「看護管理学分野」の4分野において以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(1) 構造と内容

カリキュラムを構成する科目群として「共通科目群(共通基礎科目・共通専門科目)」と「専門科目」を置く。共通科目群の共通基礎科目では看護の対象である人間を多面的に探究するために必要な選択4科目各2単位(倫理学・社会学・臨床心理学・保健統計学)を置く。共通専門科目では看護の質向上のために対象や現象を的確にとらえ分析するために必要な必修3科目各2単位(看護理論・看護学研究方法論Ⅰ・Ⅱ)、選択4科目各2単位(看護教育論・看護管理学・看護政策論・コンサルテーション論)を配置する。

専門科目では「慢性看護学分野」「地域看護学分野」「母性看護学・助産学分野」「看護管理学分野」の4分野において、高度専門看護職として社会に貢献するために必要な理論的・科学的・実践的科目必修14単位(特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、セミナー)を置く。さらにこれらの科目を通して学生の研究課題に沿った研究を進めるための必修科目6単位(看護学特別研究)を配置する。また、高度実践看護職養成コース選択者に必要な各看護学分野実習選択4単位を配置する。

(2) 順序性

Ⅰ年次は看護学の学術的基盤を形成するために、高度実践看護職養成コース、教育者・研究者養成コースともに共通科目を学修するように配置し、Ⅰ年次後半からⅡ年時は専門性を高める専門科目及び看護学分野における研究能力を獲得する科目(看護学特別研究)を配置する。

(3) 教育方法

各分野とも修士課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来的なビジョンに向けて修得できるよう履修モデルを提示・説明し、講義・演習・実習・研究指導をしたうえで履修指導を行う。また、事前・事後課題を提示し、プレゼンテーションやディスカッションなどにより学生が主体的に学ぶ方法や専門性を高める方法を取り入れる。

(4) 評価方法

① 講義・演習・実習

ディプロマ・ポリシーに基づいた達成目標及び成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により

周知し、自己評価・授業評価・教員評価とする。

(5) 修士論文の審査

日頃の研究態度や提出された修士論文などを通して、主に以下の項目について審査する。

- ① 研究課題：研究課題が申請された学位に対して妥当であり、新規性、有用性信頼性がみられる。
- ② 情報収集・課題分析：十分な文献収集や先行研究の調査を行い、研究の意義や重要性、問題設定が適切になされている。
- ③ 研究方法：設定した研究課題に対して、適切な研究方法、調査・実験方法、或いは検証方法を採用し、その結果に対して具体的な分析・考察がなされている。
- ④ 論文構成・記述：論文の記述が十分かつ適切であり、結論に至るまで一貫した論旨で論文が構成されている。
- ⑤ 研究遂行能力：当該研究領域における修士としての十分な知識を修得し、設定された問題の解明が適切になされている。

[高度実践看護職養成コース(助産師国家資格取得コース)]

母性看護・助産学分野における学位授与方針である責任遂行力、基本的な専門的自律力と助産実践力、対人関係力、研究力を持つ助産師を育成する方針で、以下のカリキュラムを編成する。助産師国家試験受験資格のために、21科目すべて必修科目として配置し32単位とする。修士学位取得の30単位を加えて計62単位とする。

1. 助産師として生命を重視する倫理観を持ち自律した助産実践者としての責任遂行力を修得する。助産師として求められる基本的な資質・能力、プレコンセプションケア等、社会・環境と助産学の関連について、出産の歴史や文化について、地域社会の特性や社会システムから説明する能力、性と生殖の自己決定を支援する能力、これらの能力を修得する。

このため、「母子の基礎科学」「助産学概論」「助産文化・国際論」「助産教育論」「母子の心理と社会」「地域母子保健」「母子保健行政論」7科目を1年次通年に配置する。

2. 周産期医療における的確な知識と助産学・看護学の理論に基づいた基本的な助産実践力を修得する。妊娠・分娩・産褥期と新生児・乳幼児期の母子と家族の助産診断と助産技術、女性の生涯に渡る健康を支援する能力、マタニティケア・ウィメンズヘルスケア能力、これらの能力を修得する。

このため、「助産診断・技術学特論Ⅰ」「助産診断・技術学演習Ⅰ」「助産診断・技術学特論Ⅱ」「助産診断・技術学演習Ⅱ」「助産診断・技術学特論Ⅲ」「助産診断・技術学演習Ⅲ」6科目を1年次通年に配置する。

3. 周産期における助産管理の実際およびマネジメント・災害時の基本的な助産実践力と助産ケアを医療政策に反映するプロセスと意義について説明できる論理的思考力を修得する。

このため「助産管理」と、「母性看護・助産学演習Ⅱ」では「NICU・GCU 演習」と「助産マネジメント演習」を臨地で行う演習として位置づけ、2科目を1年2年次通年に配置する。

4. 産実践力の基盤を形成し専門的自律力を育て「知と技と心」を修得する。

このため、受け持ち継続事例の助産過程展開と分娩第1期から第4期の助産ケア、分娩介助10例以上の「助産学実習」を1年次通年に配置する。また、助産学の講義・演習・実習の統合、集大成として「助

産管理実習」2科目を2年次通年に配置する。

5. 助産学における研究的な思考と知識・技術を修得し、助産学の発展に貢献する助産学研究力の基盤を形成する。

このため、「母性看護・助産学特論Ⅰ」「母性看護・助産学演習Ⅰ」「母性看護・助産学特論Ⅱ」「母性看護・助産学セミナー」「母性看護・助産学実習」5科目を1年2年次通年に配置する。